

特集テーマ（2022年）『緩和ケア』『臨床作業療法 NOVA』のご案内

弊社発行の雑誌におきましては、いつもお世話になっております。

さて、2022年度の雑誌『緩和ケア』の発行予定号の特集タイトル（仮）を下記のようにお知らせいたします。

今後もより一層の内容の充実に努めてまいります所存です。何卒宜しくお願い致します。

『緩和ケア』第32巻（2022年）— 特集・増刊号のご案内

◆1号「緩和治療薬のうそ？ほんと？都市伝説を検証する」（1月15日発行）

緩和治療でたびたび言われること、言われたことがあること、ときに言われていること、そういう、「〇〇は△△したほうがよい（と思う）」に関する現時点での知見や見解を紹介。

編集：森田達也（聖隷三方原病院）

◆2号「なんかもめてる？考え方が違う？価値観が違う？と感じたとき—チーム医療の現場」（3月15日発行）

医療者それぞれの世界観とアイデンティティを知ることから、もめてる？考え方が違う？価値観が違う？を考える。

編集：西 智弘（川崎市立井田病院）、海津未希子（国立がん研究センター中央病院）

◆3号「アドバンスケアプランニング—今後の方向性を探る」（5月15日発行）

ACPに関わっておられる方々のACPの最前線から実感される方向性などを紹介。

編集：森 雅紀（聖隷三方原病院）、高橋美賀子（聖路加国際病院）

◆増刊号のご案内—（2022年6月25日発行）

「緩和ケアで見逃しやすい症状に対応する—どこまでやったら合格か？」

編集：森田達也（聖隷三方原病院）、柏木夕香（新潟県立がんセンター新潟病院）

『臨床作業療法 NOVA』 第 19 巻 (2022 年) のご案内

Platinum TEXT Library !!

◇書籍の MOOK をしのぐ充実した内容!!

1 号=1 テーマ、毎号が保存版

◆1 号「記憶障害と作業療法」春号 (19 巻春号)

編集：鈴木孝治 (藍野大学)

認知症に対する評価、アプローチ方法の中核症状である記憶障害について述べる。代償手段などを用いた実生活に即した介入を解説する。

◆2 号「摂食嚥下障害の作業療法評価とアプローチ」夏号 (19 巻夏号)

編集：神作一実 (文京学院大学保健医療技術学部) / 塚田 徹 (竹田総合病院) /
百田貴洋 (植草学園大学保健医療学部)

本 NOVA では、「意味ある作業としての食べること」をテーマに、食べる機能の基礎から、臨床場面での対象者評価、そして問題解決のための介入について解説をする。

◆3 号「作業療法と臨床判断」 秋号 (19 巻秋号)

編集：齋藤佑樹 (仙台青葉学院短期大学) / 藤本一博 (茅ヶ崎新北陵病院) /
丸山 祥 (湘南慶育病院)

作業療法士の行う臨床判断は、目標設定やプログラム立案にとどまらず、作業療法士が日々の臨床場面で即興的に採用するあらゆる手段や態度、調整の源泉たるものである。本書では、臨床判断技能の向上に役立つ知識を提供する。

◆4 号「認知症作業療法と生活支援」 冬号 (19 巻冬号)

編集：谷川良博 (広島都市学園大学健康科学部)

本 NOVA では、認知機能障害や環境要因に影響を受ける認知症者の「生活障害」に対する支援をターゲットにする。さらには、認知症者の「社会参加」支援である。この「生活障害」と「社会参加」を実践する作業療法士を中心に今後の認知症の作業療法について考えていく。

『臨床作業療法 NOVA』

【18 巻】（2021 年） シリーズ案内（保存版バックナンバー）

- ◆ 1号「“当事者”と作業療法」（春号）
編集 田島明子（湘南医療大学）
 - ◆ 2号「摂食嚥下障害の作業療法—基本と臨床へのアプローチ」（夏号）
編集 百田貴洋（植草学園大学保健医療学部）
 - ◆ 3号「学校支援と作業療法（仮）」（秋号）
編集 仲間知穂（こども支援センターゆいまわる）
友利幸之介（東京工科大学）
 - ◆ 4号「観察力を活かした認知症の作業療法（仮）」（冬号）
編集 谷川良博（広島都市学園大学健康科学部）
-

【17 巻】（2020 年） シリーズ案内（保存版バックナンバー）

- 1号「作業療法マネジメント」（春号）
編集 太田睦美（竹田健康財団福祉本部）
土井勝幸（介護老人保健施設せんだんの丘）
- 2号「作業療法と目標設定」（夏号）
編集 齋藤佑樹（仙台青葉学院短期大学）
- 3号「イラストでわかる 生活動作と読み書き支援」（秋号）
編集 嶋下賢一（㈱児童発達支援協会リハビリ発達支援ルームかもん）
- 4号「作業に基づく実践である作業療法—作業療法士は作業を使わなくなったのか」（冬号）
編集 小林幸治（目白大学）